

### 冬季の観光誘客に期待

津谷市長が台湾で観光PR

### 国内最大級の文化の祭典へ向けて

第29回国民文化祭北秋田市実行委員会

津谷市長が8月7日から10日にかけて台湾を訪問し、北秋田市の観光などをPRしました。

今回は、昨年同様、佐竹秋田県知事からの要請を受けて、台湾と大館能代空港との国際チャーター便の運営と台湾からの観光誘客を目的に、知事と門脇仙北市長とともに訪問したものです。

8日は、北秋田市として独自に台北市内にある旅行会社を訪問し、北秋田市の観光DVDを用いながら、秋田内陸線、森吉山、マガギ文化などをメニューに取り入れた観光PRをPR。各旅行会社は、秋から冬



▲秋田県知事、仙北市長とともに台湾交通部を訪れPRする津谷市長

にかけての観光に強い関心を示し、特に冬の雪遊び、雪中鍋っこなどからめた観光ルートの設定について、非常に前向きな発言もあり、有意義な意見交換となりました。

平成26年度に秋田県内で開催される第29回国民文化祭の北秋田市実行委員会設立総会及び第1回総会が、8月20日、市役所で開かれました。国民文化祭は、日ごろ様々な文化活動に親しんでいる個人や団体が全国各地から集う国内最大級の文化の祭典です。昭和61年から始まり、東北では、岩手県、山形県に続き11年ぶりの開催となります。

に根ざした個性あふれる伝統文化と北秋田市の魅力を発信するため、貴重なご意見やご提言をお願いし「す」などとおあいさつ。



▲大榮旅行社で、北秋田市の観光地を積極的に売り込みました

9日と10日には、秋田県知事と仙北市長と共に、台湾交通部観光局と航空会社3社を訪問し、チャーター便の復活と仙台空港などに就航している台湾定期便の観光客を秋田県へ取込むためのPR活動を行いました。また、台湾の航空会社と旅行会社との「秋田県観光交流懇談会」を行い、秋田県や北秋田市の魅力を大いにPRしました。



▲平成26年度の国民文化祭の開催に向けて設立された、北秋田市実行委員会

### ドイツからスポーツ少年団が来市

第39回日独スポーツ少年団同時交流事業

### 駅前活性化と賑わいを

えきなかショップ「7to7」オープン

第39回日独スポーツ少年団同時交流事業でドイツのスポーツ少年団員ら8人が、7月27日から31日まで北秋田市内に滞在し、民泊やスポーツ交流などを通して、日本文化に触れ理解を深めました。

マイヤーさん(男性・42歳)と団員6人、通訳1人が訪れました。北秋田市では、平成8年の旧森吉町以来16年ぶりの受け入れとなりました。

えきなかショップ「7to7」(セブントウセブン)が7月27日、JR鷹ノ巣駅構内にオープンし、関係者がセブントウセブンを祝いました。

同事業は、財日本体育協会日本スポーツ少年団が、日独両国のスポーツ少年団の育成を図るとともに、交流を通じて友好親善を深めようと、昭和49年から実施しているもの。今回は、7月25日から8月10日の日程で125人の団員が日本を訪れました。

7月27日には、民泊受け入れ家族や関係者などが出席し、ホテル松鶴で歓迎セレモニーが行われました。

長い間、駅に売店がない状態が続く声や寄せられていたが、関係機関が協議を重ね、この度、マガギの里観光開発(株)(鈴木謙一代表取締役社長)が、開業することになりました。



▲歓迎セレモニーで、あいさつをする津谷市長

北秋田市には、指導者のウヴェ・ポーター少年団が、日独両国のスポーツ少年団の育成を図るとともに、交流を通じて友好親善を深めようと、昭和49年から実施しているもの。今回は、7月25日から8月10日の日程で125人の団員が日本を訪れました。

セブントウには、市やマガギの里観光開発(株)、JR、秋田内陸縦貫鉄道(株)の代表者のほか、秋田北鷹高校の松橋憲吾生徒会長、鷹ノ巣駅前振興会の菊地邦廣会長らが出席。



▲関係者がテープカットを行いオープンを祝った、えきなかショップ「7to7」